

まどい

第199号

秋田県羽後町仙道中学校昭和30年卒

1955（昭和30年）創刊

2011年4月20日発行

186-0003 東京都国立市富士見台 3-6-404
tel/fax 042-574-8694 ・直 090-2332-4408

まどい編集室

http://www32.ocn.ne.jp/~madoi/
mal: madoi30s@cc.mbn.or.jp

111年(平成23年)3月15日 火曜日



東日本大震災

「生きていますよ！」（菊池舟子さん）

みんな無事で良かった！

同級生の「絆」すばらしい仲間。

平成二十三年三月十一日午後二時四十八分、あのおぞましい大地震と大津波。この世の終わりがとさえ思える大惨状。テレビではよく見たこ

とがあったが今回の津波ほどのものは見たことがなかった。

奥尻島の津波もあったが今回のようなリアルな映像はなかった気がする。

私は当日所用で車で出かけていた、そのとき信号待ちのため駐車していたが車が大きく左右に揺れた。今日は随分と風が強いなと感じたが、隣の車の人も窓を開けてさかんに外を見ていた。

あの時があの大震災だったのだ。カーラジオから緊急放送が流れる、緊迫したアナウンサーの声。繰り返す津波到着を放送。宮城県、岩手県福島県とその惨状が刻々と報道。

すぐさま家族の様子、仙台にいる妹のこと、そして仙台と言えば菊池舟子さんのこと、三浦浩二さんの家族のこと。次第に被災地の様子がテレビで放映される。目を覆うばかりだ。

その夜第一報は大阪の藤太郎さん。「あまりのひどさに涙がとまらん」と。仙台の妹に電話メールなどするも当然通じない。舟子さんにも。翌日に秋田の次兄からこちらは全員無事との電話。古い電話（？）だから通じたとか？。

次第に同級生連のことが気になりだした。関東まで来ていたとは知らなかった。上原和雄、大友清五郎、高橋経子さん、土田栄治、大友朝蔵、今福宗文、鈴木宇之助。みんな無事だ！。そしてみなさんを心配して私の方へ問い合わせの電話、トモ子さんシゲさん、きこ子さん、敏子さん。嬉しい同級生連の心遣い。

そして一番心配していた舟子さんから直接電話があった。「生きていますよ！」と。本当に嬉しかった。ついで心配していた妹からも無事の手紙。全国に散らばってもこうして心から心配してくれる同級生連の「絆」、すばらしい仲間。

長い長い復興への道のりであろうが我々も小さな事でも少しずつ何かを協力してゆこう

がんばれ日本！

高橋孝之助

震災に遭われたみなさん お見舞い申し上げます。

吉田きさ子

〓冥福をお祈りします

金子健治様、今野正治様。まどい紙面で知らされました。亡くなるまではまだ遠いと思っていた中で、続けて二人も亡くなるなんて。「寿命」だとすれば本当に仕方ないことですね。

正治さんの兄嫁さんが亡くなられた時に、お会いしているいると話してくれたのに。ただただ冥福をお祈りいたします。

国外でもいろいろと事件や不幸も有りましたが、日本でもところによって豪雪の冬でしたが、暦の上では春。テレビでは桜の紹介があったりそろそろ旅行の季節になってきましたね。私たちウサギ年七十を越えるとい人二人と閉じられていきます。その

ことを目にしたり聞いたりと本当に寂しくなってきましたね。でも元気でいるとまだまだ楽しい事もいっぱいあると思います。薬を飲み飲みの年代だとは思いますが、お互いに健康に気をつけて一年でも長く自分たちなりに楽しく生きていきたいと思います。

京都に参ります

五月は九日から五日間関西旅行に行く事になっています。関西旅行は、浄土宗本山西本願寺七百五十回大遠忌法要にあわせての団体参拝に参加することです。浄土真宗本願寺派なので、お父さんも私も歳でもあり体調を考えた上で参加の方向になり楽しみにしているところです。

もしかしてまどいのみなさんの中にも、西本願寺派の方がいるとしたら、日には違っても京都西本願寺へ出向いておられるかも知れませんね。京都は本当に良いところです、誰かにお会い出来ると良いですね。

お疲れさまでした

まどいもまだ続けてほしいと願っていました。二百号までとのこと、だとあと二回。この言葉を目にしたときおやおややっぱり歳かな、で

も今まで良く頑張って続けて来られたね。いろんな事があったはず、北の空の下までおくり続けてくれた事に心から深く深く感謝の一言と思っただもので、本当に長い間お疲れさまでした。

これからは今までまどいに集中してきた分を、たまには奥様とノンビリと観光し、又温泉などでゆっくりと楽しんでください。

地震に驚きました

元気でいけば「ハヤブサ号」東京スカイツリーもと感動がいっぱいと思いつつ、まどいに向けて書き始めたときに、突然自分のいる場所がムクムクと。そのときは近いところの温泉にいたのでみんなも、あっ地震だ！。その地震なかなかやまず長いねと話していました。

家に帰ってテレビをつけてみると今まで見たこともない津波、黒い煙をあげながら、車や家並みがゴミのように流れて自分たちに向かって来る様子を見ると、本当に人ごとではないと思いに涙しながら書いたところです。

まどいのみなさんの中でこのような被害に遭われた方がいましたら心からお見舞いを申し上げます。どうぞ元気を出してください。そんな思いに

重ねてまたまた襲ってくる恐怖、福島第一原発。私たち若いころに放射能発生で大問題し大騒ぎしたことを覚えていますが、本当にこの後何が襲ってくるのかと思わずにいられない様な気がします。震災も原発も早く収まってくれることをただただ祈っています。

まどいのみなさまどうもお元気で、

「東北関東太平洋沖地震」

同級生は全員無事です。

全国の同級生のみなさんが心配していました。それぞれ身内の方々お友達のこと、今は通信網もだいぶ回復していますが当初はまるで連絡も取れませんでした。

私たち「まどい」に関わっていると菊地昴子さん、三浦浩二さんのご家族、次郎先生のご家族、金子健治さんのご家族千葉の老友清五郎さんそれぞれみなさん無事でおられることが確認されました。浜に一番近い平塚に住んでいる大友朝蔵さんは、津波の危険があると言ったことで一時避難されたと言ったことです。

幸いにも私たち同級生はとりあえず無事であることが分かり、ホッとするとともに。今度の災害の大きさを改めて知らされることになりました。

東日本大震災

仙台市若林区の菊地卓子さん

「時間が止まったようです」

連日報道される震災の状況

そして若林区という地名は私
たち同級生の菊地卓子さんが
住んでいるところなので、多くの同
級生から問い合わせの電話がありま
した(孝之助)同級生の中にはこう
して電話を通じて卓子さんの無事で
あることを知り安堵していることか
と思えます。

「激甚」「未曾有」と言われるこの
大震災は地震・津波・そして放射能
汚染という三重苦を背負わせた地球
上初めての災害ではないでしょうか、
それだけに今や世界中の人々に大き



な衝撃を与えた事件だと言えそう
です。

卓子さんに電話をしてみたい、そ
う思いながら「何か怖くて電話も出
来ないんです」岩崎稲子さん。

飯塚和雄さんはぐらっと揺れたとき
に卓子さんに宛てて書いたハガキが
少し落ち着いてから届いたと言いま
す。

震災から二十七日目四月七日、

「風邪を引いてしまった」と言っ
ても元氣そうに伝えてくれました。
「みなさんには心配を掛けまし
た」と言いながら「今は冷静ではい
られない状態でも何とも言えそうにあり
ません」この震災の影響の大きさを
感じさせる言葉でした。

※

「宮城沖地震などこれまでの経験か
ら家具などはきちんと転倒止めをし
ていますので倒れることはなかった
が中にものが飛び出すなどで部屋の
中が散らかってまだ片付けていない

んですよ」

震災当日からご主人は避難された
人たちのために家に帰ることもなく、
又息子さん夫婦は任務として被災者
の救済に当たるなど現場に詰めてい
ます。

余震のある中雪の降る中その夜は
車の中で過ごしました。主人やむす
こたちも今は時々着替えて帰って
くるのですが、それでも後一週間もす
れば少しは落ち着くのではないかと
話していました。

ライフラインも五日目から一応復
活しましたが、五日ぐらいの食料な
どは確保していましたがからなんとか
非常食や「カンパン」を取り出すま
ではなりませんでした。

今度の災害はテレビなどで津波の
惨状をそのまま報道されましたが、
実際に現場の風を肌で受け
止めるのと映像とはまるで違うもの
でした。この現状を子供達には心に
刻みつけてほしい、忘れることはな
いだらうが風化することのない様に
してほしいと孫を連れて荒浜の方に
出かけました(息子夫婦には内緒で)
この土地は穀倉地帯、春には緑の田
園が広がるのですが津波の運ん
だドロやがれき取容されていない遺
体もありました。肌を刺すような風
とにおい。本当に「冷静ではいられ

ない」時間の止まる感じのする現状
でした。この感覚はテレビ画面を何
回見ても感じるものの出来ない肌に
胸に感じると言いつつなのではない
でしょうか。

幸い我が家は津波に遭うこともあ
りませんでした。浜に添って走る
「東部道路」が防波堤の役割を果た
したのではないかと言われています。
それでも近くまで来ていたのです。

※

これからは加えて放射能汚染の事
も心配です、暖かくなると南風が多
くなります。

おそらく風邪も疲れからなのでしょ
う、少しハスキーな声でしばらくお
つきあいを頂きました。ずっと二人
のお孫さんの世話をしながら暮らし
てきました。

電話をさせていただいた翌日にも
十一時三十二分に震度六強という余
震がありました。岩手秋田宮城は即
停電と聞きます。余震としてはこれ
までのにない大きさでしたが。さて
卓子さん大丈夫でしょうかとても気
になりながらこれを書いています。

「激甚」と指定されたこのたびの
震災、一日も早い平常の暮らしと復
興がなされることを願っています。

(四月八日佐藤芳雄記)

遅まきの新年会

昨年の猛暑は冬の豪雪へと導いてくれました。続けざまに雪下るしという年寄りにとってはまさに痛めつけ！。

地元だより

そんな合間の二月二十二日、地元ではじいさんばあさんがよくやく暇をもらえることになり「としとらんど」に写真の七人が集まりました。久々に言かきのことなど忘



れて楽しいひとときでした。

地震にも負けず

津波にも負けず

放射能にも負けず

そんな人間に私はなりた

テレビである学者先生が「自然には未曾有も想定外もありませんといい切りました。人間はもったもて地球に寄生する生き物。ひとたび地べたが動けば為すすべもない。その人間が持つ頭脳はまだ自然を宇宙を従える力もない。唯一戦えるのは「希望と人間愛と体力」それが「頑張れ日本」なのでしょう。

「東北関東大震災」(名称が報道社によってまちまちなのはおかしい)実際の地震による被害を把握する前に津波による被害の方が目に見えてすさまじい。串子さんに「冷静でいられない」と言われた現実です。しかしそこに追い打ちをかけたのが福島島の原発です。これは更に深刻で数十年に及ぶ被害をもたらしかねない巨大な魔力をもっている。しかもこれは人間が作り出したものだ。人間は頭がいいから。ただ原子力のエネルギーを活用することで生物に有害

な放射線物質が発生するおそれがあることは先刻ご存じのはずとおもいます。その危険物を消去する方法は研究されなかったのかなあと素人は思うのだが・・・。

巨大な「東北関東太平洋沖地震」M9震度7は「起震車」設定の揺れです、この動きが地べたにあったとなれば、まさに地震だけでも甚大な被害だったのでしょう・・・。

福島原発を始め、発電所の震災により急激な電力の不足は、関東に「計画停電」の実行と相成った。その不安から生活必需品の買い占めが横行し食料さえ商店から盗を消すという。報道関係と政府は風評を停めようと躍起になっているのが分かる。放射能汚染などは実際には影響なしと言われながらも包括的核実験禁止条約機構(CTBO)は地球の北半球全域に拡散しているとの報道を見るとやはり怖い。

元に戻すことは神にも無理でしょう。何はともあれ事態をしつかりと見極めることかなと思うのですが。

地震や津波による災害は泣きながらうち勝って行ける力をもてるのだが、人間が作ったものからの驚異は泣いても泣ききれない悔しさがこみ上げてくるもののようにです。

編集手帖

まずこのたびのしんさいで被災されたみなさんに心からお見舞いを申し上げます。

亡くなられた方が一七三一人。未だ行方不明が一四七〇六人。更に避難生活をしている人たちも一五七一九六人ものみなさんがおられるとか、この数だけでもその巨大さを知らされます。

同級生に限って見ればみなさん無事のように安心しました。しっかりと家を守っているようでひとまずは安心しました。どうぞお体を大事に復興に取り組んでいただきたいと思えます。

三・一一地震と呼ぶところもありますがまだ大きな余震も予想されるとか、想定外が当然の自然相手のこと、いつも心してお暮らしください。今回は震災が中心になりました。

故内藤徳志さんの奥様から、送料の一部に代りて寄付を頂きました。嵯峨宗子様から、送料の一部に代りて寄付を頂きました。